

活動事例

産業界支援

UTプロジェクト -H24 年度活動事例-

支援先

筑波大学, 結城紬業界

【内 容】

UTプロジェクト[筑波大学教職員, 紫峰会(筑波大学学生後援会), 茨城県工業技術センター 繊維工業指導所職員, 結城紬業界の有志による産学官連携プロジェクト]活動の一部をご紹介します。

「第4回結城紬を活かした日用品コンテスト」

結城紬の端切れときりすね(織機の構造上織ることができずに残る糸)を使ったアイデア溢れる日用品を募集。今回は41点の応募があり, UT大賞には「お祝い袋」が選ばれました。

「復興支援チャリティーオークション」

過去3回の日用品コンテストの入賞経験者に結城紬を活かした日用品の製作を依頼し, 寄せられた作品57点について, WEB上や展示会でのオークションを実施しました。収益金は震災と竜巻被害の復興のため, 茨城県等に寄付される予定となっています。



日用品コンテストUT大賞作品



チャリティーオークション出品作品



作品展示風景(於:筑波銀行)

基礎となった事業

平成 24 年度 試験研究指導費(標準)

現在の担当部門

紬技術部門

部 門 長

篠塚 雅子

TEL:0296-33-4154

主任研究員

本庄 恵美

主任研究員

石川 章弘

主任研究員

中野 睦子

活動事例

産業界支援

JAGDA Kasama Exhibition の事業支援

支援先企業

(社)日本グラフィックデザイナー協会
茨城, 茨城県窯業振興協会, (株)ウィット, 東京ミッドタウン

【内 容】

デザインと笠間焼のコラボレーションによる地域活性化を目的としました。グラフィックデザインの情報メッセージ性をすり鉢に表現し, 伝統的工芸品である笠間焼の新たな用途可能性を探ることとしました。

かつての産地シンボルであった「すり鉢」をモチーフとし, 伝統技法である釉薬の「流し掛け」や「浸し掛け」をインクジェットプリンターによる転写で表現することを提案しました。グラフィックデザイナーが制作した文字メッセージや図柄パターン, 抽象イラスト等のメッセージは, すり鉢に縁遠い若年世代にも十二分に伝わり, 笠間焼の新たな可能性も問うことができたと自負しております。



- 会期: 10/26~11/4 (東京ミッドタウンデザインタッチ期間中)
- 場所: 東京ミッドタウン (ミッドタウン・ガーデン内水路)
- 展示数: 10点
- 掲載: ミッドタウン広報誌

基礎となった事業

平成 24 年度 試験研究指導費(標準)

現在の担当部門

工芸技術部門

部 門 長

佐藤 茂

TEL:0296-72-0316

嘱 託

佐藤 剛